

デジタル人材像に合わせたオンライン研修を実施 ラーニングパス活用で効率的な学習プランを提供

大分市では、デジタル人材の確保と育成が喫緊の課題となっており、情報政策課を中心にデジタル人材育成に注力しています。今回はUdemy Business(以下、Udemy)を活用し、市が定義するデジタル人材像に沿ったラーニングパス^{*}を用いた研修を実施している事例としてご紹介いたします。

^{*} 学習者が受講しやすいように、スキルごとに推奨講座や(庁内の)内製講座、外部WEBサイトを学習計画としてまとめているカリキュラム作成機能。

大分市の現状と課題

大分市では、2020年に策定された「自治体DX推進計画」に沿った取り組みを進めていくため、2021年4月に情報政策課内に「ICT推進室」を設置し、業務のデジタル化の推進、市民の利便性の向上、行政事務の効率化を図っています。また、民間経験者の採用や、専門のICTコンサルタントの活用により、デジタル人材の確保にも努めています。

DXを推進するうえで、課題として感じているのは、職員によってIT知識に差があることです。私がこれまで庁内の各課の職員とシステム開発のプロジェクトを進めてきた際にも、IT知識不足のため、ITに抵抗がある職員が多いと感じました。そういった状況を受け、大分市では現在、5つのデジタル人材像を定義し、デジタル人材育成の取り組みをはじめています。

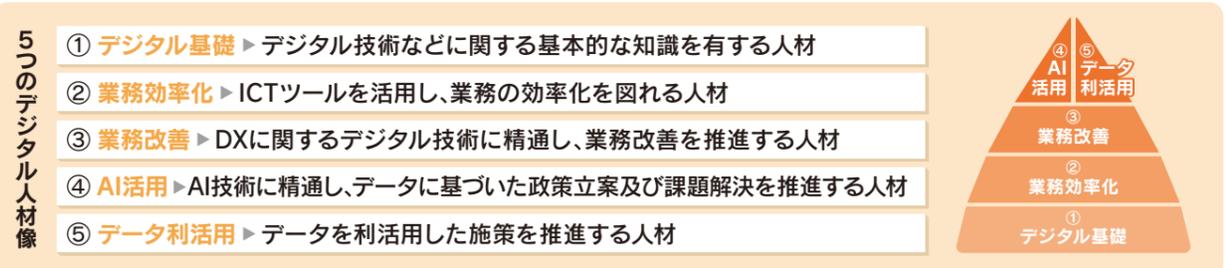


大分市企画部情報政策課
管理担当班グループリーダー
かわの かずや
川野 和也さん

2003年4月に大分市入庁。2009年1月に情報政策課に配属となり、近隣市と共同での公衆無線LANの導入、税・国保などのシステムの調達・開発・運用などを担当。2021年4月から現職。

大分市が考える5つのデジタル人材像

大分市では、経済産業省が出している「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン(DX推進ガイドライン)」に記載されている内容などを踏まえ、5つのデジタル人材像を定義しています。



①については、庁内全職員向けに、経済産業省から提供いただいたデジタル技術などに関する基本的な知識が学べる動画を配信し、今年度末までに視聴するようにしています。②～⑤については、Udemyにそれぞれ異なるラーニングパスを設定し、

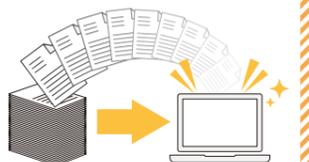
オンラインでの学習環境を提供しています。情報政策課では、④、⑤のようなAIやデータサイエンスなどの最新技術を利用できる高度なデジタル人材の育成も重要と捉える一方で、③の人材像の育成に特に注力していきたいと考えています。

庁内DXワンポイント事例

RPA導入を機に業務改善意識を醸成

消防局総務課においては、消防署職員の勤務実績の庶務事務システムへの入力作業を自動化し、事務職員の業務時間の大幅な削減が実現されました。また、RPA導入を契機として、これまでの紙媒体による実績の報告を電子データに変更するなど、業務改善の意識が醸成されています。

^{*} 大分市では、9課18の業務でRPAを利用し、その取り組みは総務省の「自治体におけるRPA導入ガイドブック」にも取り上げられています。



大分市のデジタル人材像に合わせた4つのラーニングパス

大分市の育成したいデジタル人材像に合わせた4つのラーニングパスは到達したい目標に応じて、次のように設定をしています。

- ② 業務効率化 DXに関するソリューションやIT技術の概要、Office系ソフトウェアの使い方などを学べるようにしています。
- ③ 業務改善 事務作業の自動化や手続きのオンライン化など庁内業務のDXを推進するため、各ソリューションの活用方法などを実践可能なレベルまで習得することを目的とし、RPAツールの「UiPath」やバックオフィスで活用できる「Kintone」などを学べるようにしています。
- ④ AI活用 AI技術を活用できる人材の育成をめざし、AI活用の基礎からプログラミング、データサイエンスまで学べるようにしています。
- ⑤ データ利活用 データの重要性と利活用のメリットを理解するとともに、他自治体の事例を知ることなどで、業務において、EBPMなど、データ活用できる人材の育成をめざし、データを使った業務改善、統計学などを学べるようにしています。



▲③のラーニングパス(Udemyの画面)



^{*} □部分のカリキュラムは自由選択となります。

Udemyを活用したデジタル人材育成研修

大分市では、庁内のデジタル人材育成にかかる新たな取り組みとして「Udemyを活用したデジタル人材育成研修」について、庁内に受講者を公募したところ、150名から受講申込みがありました。この応募数は想定の3倍以上で、今回の取り組みで、デジタル化やデジタル技術などに関心のある職員が庁内に多くいることがわかりました。受講する職員は、今年度末まで、Udemyで学習します。受講に際しては学習計画書の作成をお願いしているので、学習機会を活用できているかどうかの検証もしていく予定です。受講開始時に提出してもらった

学習計画書の中には、「システム関係の基本的な知識やDXなどの内容について、理解を深めたい」「RPAなどを取り入れた業務プロセスの改善を図れるようになりたい」「データ分析技術やAI技術を学びたい」といった声が多く、学習に対する期待を感じました。今後は随時、進捗を確認し、受講者のサポートもすることで、多くのデジタル人材を育成し、市民の利便性の向上や行政サービスの更なる向上に繋げていきたいと考えています。また、今後もUdemyの活用を検討するなど、デジタル人材育成の取り組みを進めていきたいと思ひます。